



## 「カラヴァッジョ展」鑑賞会

2016-4-19 (火) 10:00～ 於：国立西洋美術館 (上野)

### 《 鑑 賞 記 》

今回の「カラヴァッジョ展」は本人の作品点数が11点と多い、贅沢な展覧会だ。入口すぐの『女占い師』に迎えられ、会場の展示は、「風俗画」、「静物」、「肖像」、「光」、「斬首」、「聖母

と聖人の新たな図像」とつづく。

鑑賞会前には、大箸渡さんの「事前学習会」が催され、カラヴァッジョの卓越した技法とともに、喧嘩に明け暮れ、ついには殺人者として追

われる身になるという壮絶な生涯をご教示いただいた。

さて、作品についてですが、1点を選ぶとすれば『法悦のマグダラのマリア』

(1606年夏)である。イタリアで1610年に死んだときに所持していた3点のうちの1点であり、その後個人コレクションとなり

行方不明、2014年に真筆であるとシーナ・グレゴリー氏が認定し、今回が世界初公開である。何とあり難きシチュエーションであろうか。技法のすばらしさは解説者に譲るとして、「マグダラのマリア」の女性としての評価について触れたい。



マリアはイエスにつき従い、自分たちの持ち物を出して奉仕した婦人たちの一人である。イエスは彼女から7つの悪霊を追い出した。多くの罪が赦されたことはわたしに示した愛の大きさでわかる、と福音書に記述される。

教会の教父たちは、マグダラのマリアをキリストの弟子として、また福音の宣教師として傑出した女性として扱っている。復活したイエスの秘密の啓示は、マグダラのマリアを通じて伝えられたともされる。何に法悦して宙を見つめているか分からないが、イエスにより悪霊が追い出され、罪深き過去が消えた瞬間なのだろうか。カラヴァッジョもその犯した罪から逃れたかったに違いない。

(小池久雄記)



今回の鑑賞会の参加者は13名、鑑賞後、国立西洋美術館の前で記念撮影。その後場所を歩きつきの秋葉原・銀蔵に移して寿司など食しながらの鑑賞発表会、いつのまにか話はあちこちに転じ、最後は、皆、満足顔で散会しました。